



Quarterly
クォーターリー

大学入学式

高千穂

高千穂学園の学風
泰先立つ進歩性

春号

2012/5 Vol.37

TAKACHIHO UNIVERSITY



Quarterly
クォーターリー

高千穂

Vol. 37 | 2012/5

Contents

3	Information
	平成24年度新入生オリエンテーションの実施について
4	TAKACHIHO Calendar
	平成24年度学年暦
6	Message
	祝入学 ―大学生活4年間の充実に向けて― ／理事長 藤井 耐
	祝入学 ―充実した4年間を― ／学長 成田 博
	新入生歓迎の辞 在学生代表 学友会 会長 大西 洋平
9	TAKACHIHO Committees
	大学の委員会紹介
10	New Professor Profiles
	教育・発達の問題について思考し模索し続ける ／人間科学部 准教授 岡田 有司
	政治学には何ができるのか／経営学部 准教授 五野井 郁夫
	経験を積み持続的成長を目指す／商学部 准教授 柴田 舞
	生産活動の実態を写像する正確な原価の測定 ／商学部 助教 小泉 友香
12	Institutions & Facilities
	施設利用案内 白根セミナーハウス 情報メディアセンターからのお知らせ コンピュータ室の利用について 図書館
14	New Books & Review
	書籍紹介
15	TAKACHIHO News
	平成24年度 就職活動支援行事 就職活動中の皆さんへの支援行事
16	TAKACHIHO Data Eye
	平成24年度 入試結果報告 平成24年度 課外講座について
18	TAKACHIHO Information
	歓迎の辞 高千穂学園同窓会 会長 福田 昌夫
	父母の会 父母の会 会長 米田 恵美子
	編集後記

平成24年度新入生オリエンテーションの実施について

学生委員長

森平 明彦

平成24年4月に入学した新入生に対し、スムーズな大学での学びと学生生活のスタートとなるようにオリエンテーションを実施して、高千穂大学での新入生の第一歩を歩むべく企画をいたしました。簡単にその紹介をさせていただきます。

その日程は、商学部・人間科学部は4月5日、7日、9日、経営学部は4月6日、7日、9日に実施をいたしました。

その構成は、ゼミ I 別研修、全体行事、web履修からなっております。

それぞれの内容は、まずゼミ I 別研修で、小人数の基礎ゼミナールにおいて、教員と上級性からなる学生スタッフが、大学にまだなじみのない新入生に「アイズブレイク」と名付けられた初対面のコミュニケーションを行い、緊張感を適度に和らげたあと、高千穂大学の歴史や学びの特色、一年生として注意しなければならない履修や学生生活のポイントを説明したり質疑を受けたりしました。この数回にわたった基礎ゼミでは、熱心に実際のカリキュラムの組み方や大学生活でわからないことについて、教員や学生スタッフとやり取りする姿が見られました。そして、いくつかのゼミ室では、時間を延長して残った新入生の希望で、学生スタッフ等が細かい点まで新入生に指導や相談に乗っていた例があったことも印象的でした。またweb履修では、教務課の職員の指導の下に実際のカリキュラムの履修までこなす新入生の姿に、大学生としての学びのステージに立つ意気込みを感じました。それはまた彼らの意欲にあふれる、頼もしい姿に出会うことにもなりました。

全体行事では、理事長講話において、藤井理事長の自らの大学時代の経験を踏まえた話に全身で聞き入っている新入生の表情が、情熱をこめて新入生に語りかける理事長に答えるかのようにうかがわれ、すがすがしい印象を残したことが挙げられます。

さらに全体行事では、教務委員会の教員と教務課職員による学びのカリキュラムや学部毎の履修の注意点の説明がされる教務関係説明、そして学生委員会の教員と学生課職員による学生生活関係説明で、日々のスムーズな学生生活を送るための様々の注意点や守るべきルールの説明がされました。

次に、在学生の企画による大学生活の概要の説明が新入生全員に行われました。高校と異なる授業の

特色のわかりやすい解説、本学の特色である様々の課外講座の紹介が実際に資格を取得した先輩の体験談を交えて、興味深い語りでなされ、さらに海外留学の紹介では、IBCS オレゴン大学の留学の現地スライドによる映像の紹介と英語でのあいさつがとても新入生に好評でした。そして、各クラブの紹介が実演のパフォーマンス入りで実施されましたが、さっそくこの後、クラブハウスの部室を訪ねてみる新入生もおりました。最後には、この学生企画で、高千穂大学の校歌練習があり、高らかな歌声を体育館に響かせておりました。

このようにしてオリエンテーションを終了した後、4月11日(水)から春学期の授業が開始となりました。



春学期



4月4日 入学式



4月5日～4月9日 新入生オリエンテーション



6月2日 体育祭

月	日	曜	行 事
4月	1	日	学年開始
	3	火	2・3・4年生以上履修ガイダンス 春学期履修登録期間（～9日）
	4	水	入学式
	5	木	新入生オリエンテーション①（A班）
	6	金	新入生オリエンテーション①（B班）
	7	土	新入生オリエンテーション②（新入生全員）
	9	月	新入生オリエンテーション③（新入生全員）
	11	水	春学期授業開始 定期健康診断（1～3年生対象）【16日まで】
	14	土	履修登録科目変更期間【20日まで】
	25	水	春学期学生会総会
	29	日	昭和の日
	30	月	振替休日（通常授業）
5月	3	木	憲法記念日（全学休講）
	4	金	みどりの日（全学休講）
	5	土	こどもの日（全学休講）
	27	日	学園創立記念日
6月	2	土	体育祭
	21	木	六月祭【23日まで】
	30	土	春学期学生会競技大会
7月	4	水	春学期放課後補講開始【21日まで】
	16	月	海の日（通常授業）
	18	水	春学期補講①
	21	土	春学期授業終了日
	23	月	春学期補講②
	24	火	春学期定期試験【30日まで】
	31	火	春学期追試験【8月6日まで】
8月	7	火	夏季休業【9月20日まで】
	下旬		春学期成績表送付
9月	上旬		春学期卒業認定者発表 卒業対象者のみ成績質疑受付【当日のみ】
	5	水	秋学期履修登録期間【～10日まで予定】
	21	金	秋学期授業開始 秋学期履修変更期間【28日まで】
	22	土	秋分の日（通常授業）
	28	金	春学期卒業証書・学位記授与式
	30	日	秋学期学費納入期限

秋学期

月	日	曜	行事
10月	上旬		1年生対象コース(新ゼミ員募集)ガイダンス
	8	月	体育の日(通常授業)
	18	木	高千穂祭準備(全学休講)
	19	金	高千穂祭(全学休講)【21日まで】
	22	月	高千穂祭片付(全学休講)
	24	水	秋学期学生会総会
11月	3	土	文化の日(通常授業)
	上旬		平成25年度教職課程履修ガイダンス
	5	月	ゼミ発表会【9日まで】
	23	金	勤労感謝の日(通常授業)
12月	1	土	卒業論文提出受付開始
			三高商定期戦表彰式
	15	土	ICE
	18	火	秋学期放課後補講開始【1月21日まで】
	23	日	天皇誕生日
	24	月	振替休日(通常授業)
	25	火	冬季休業【～1月8日まで】
1月	1	火	(元旦)
	9	水	授業開始
	14	月	成人の日(全学休講)
	15	火	卒業論文提出期限
	16	水	秋学期補講①
	18	金	秋学期補講②
	19	土	大学入試センター試験(全学休講)【20日まで】
	21	月	秋学期授業終了日
	22	火	秋学期定期試験【1月30日まで】
	25	金	一般入試(英・国)(全学休講)
	31	木	一般入試(ベスト2教科)(全学休講)
2月	1	金	秋学期追試験【2月7日まで】
3月	5	火	秋学期卒業認定者発表
			卒業対象者のみ成績質疑受付【当日のみ】
	上旬		秋学期成績表送付
	20	水	卒業式
	30	土	春季休業【3月31日まで】 次年度春学期学費納入期限

※4/30(月)昭和の日振替休日・7/16(月)海の日、9/22(土)秋分の日、10月8日(月)体育の日、11月3日(土)文化の日、11月23日(金)勤労感謝の日、12月24日(月)天皇誕生日振替休日、は通常授業とする。



10月19日～10月21日 高千穂祭



11月5日～11月9日 ゼミ発表会



12月15日 ICE



3月20日 卒業式



祝入学

—大学生活4年間の充実に向けて—

理事長

藤井 耐

既にご周知の通り、本学園は1903年（明治36年）の高千穂小学校開学に始まり、本年は学園創立109年を迎えました。又、1914年（大正3年）に開設された現在の高千穂大学の前身である高千穂高等商業学校は、我が国屈指の商業・経営教育を施す学園として長年にわたり高い評価を受けて参りました。

本学園創設者である川田鐵彌先生は建学の理念・教育理念として、下記7点（7項目）を記しています。第1は、日本国民としての責任意識を持ち、同時に、祖先を敬い、父母に対して真心を尽くすこと。「祖先の祭礼の重視と忠孝」。第2は、勤労に励み身体を鍛えること。「勤労と体育の重視」。第3は、人間も組織・国家も各々が自らの責任と権限を認識し、品性を高めること。「自治の精神と品性の修行」。第4は、真心を持ち、正しい道を歩むこと。「信義の重視」。第5は、自らの言動・行動に責任を持ち、他者（父母、兄弟姉妹、祖父母、友人、周囲の人々等）を敬う心を育むこと。「言行の慎みと敬意の尊重」。第6は、年長者を尊重すると共に、幼き子供達に対し、適切な指導を施すこと。「（年）長者への敬意と幼者の導き」。そして、第7は、自らの志しを貫き、正しき道を遵守・尊重すること。「志操を固くし、事の正確さを知る」というものです。—「朝礼訓話集」より。—

そして、この建学の理念・教育理念を現代的に表現したものが、今日の「学風の指針」及び、「学風の目標」なのです。

「学風の指針」である、「常に半歩先立つ進歩性」とは、着実なる半歩、すなわち、不断の努力・行動力を意味し、この努力の継続性により、自らの将来を、又、社会・国家の将来を客観的・科学的・理性的に予見・展望する能力が醸成されることを表現しているのです。又、「学風の目標」に掲げられている、第1の「気概ある常識人」とは、精神的強固さを、第2の「偏らない自由人」とは、中庸の思想を、そして、第3の「平和的国際人」とは、優しさ・配慮行動を各々意味しているのです。

平成24年度の新入生の皆様も、高千穂学園の文化的風土である「家族主義的教育共同体」の下、上記、建学の理念・教育理念を体現化できる学生として、4年間の高千穂生活を充実化させて下さい。





祝入学 －充実した4年間で－

学長

成田 博

今春、高千穂大学は、学部（編入生を含む）、大学院、合わせて合計 563 名の新しい仲間を迎えました。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。高千穂大学へようこそ皆様のご入学を歓迎いたしますとともに、心よりお祝い申し上げます。

大学は学問を修める場であり、4年間で多くの専門的知識や能力を身に付けることが最も重要です。しかし、大学時代とは多くの友人や恩師と出会い、将来のことや人生について語り合うことによって、学問以外にも多くのことを学び、経験する期間でもあり、それぞれの考え方や価値観を形成するための場であるともいえるのです。

昨年の東日本大震災では、突然私たちは不便な生活を強いられ、自然の力の前では人間が如何に弱いものかを痛感しました。物の豊かさや便利さを追求してきたことへの反省も含め、私たちのこれまでの考え方や価値観を改めて問い直す機会となりました。

大学での勉強、学問では、記憶力だけを問われるのではなく、多くの知識を蓄積するとともに、その知識をどのように判断、活用するか、物事をどのように捉え、考えるかを学びます。本学では商学、経営学、人間科学の専門領域に比べて、幅広い学問領域の科目が用意されており、講義では多様な物の見方、考え方に触れることができます。また、ゼミナールなどで多くの先輩や仲間、そして先生と議論することで、次第に皆さんそれぞれの考え方や価値観が形成

されていくものと思います。大学時代における様々な経験の中で形成される価値観は、本学の学風の目標の1つに「偏らない自由人」とあるように、偏りのない、そしてバランス感のあるものとなるでしょう。そして、その価値観は、皆さんを社会性や協調性、さらには倫理観を備えた人へと大きく成長させる力となるはずです。

この大学での4年間とは、卒業後の長い人生を支えるため、あるいはそれを決定するための重要な期間です。光陰矢のごとし、時はあっという間に過ぎ去ってしまいます。学ぶということは一生継続するものではありませんが、ここで、この4年間で頑張らなければいつ頑張るのか、そういっても過言ではありません。この4年間、立ち止まることなく、常に前を向いて一歩ずつ歩みを進めていくこと、努力を継続することを是非実行してください。

新入生の皆さんは、この経済状況が厳しい中、大学で学ぶ機会を提供してくれたご家族への感謝の気持ちを忘れることなく、是非充実した毎日を過ごしてください。すべての皆さんが、4年間の大学生活で、多くの知識、能力を身に付けるとともに、人としても大きく成長されることを期待しています。4年後、高千穂大学に入学して良かった、素晴らしい大学生活だったという思いを持って卒業されることを心より期待しています。



新入生歓迎の辞 在学生代表

第16代学友会 会長

大西 洋平

新入生の皆さん、ならびにご父母の皆様、ご入学誠にありがとうございます。高千穂大学の新たな学生となる皆さんを心から歓迎し、在校生を代表してお祝い申し上げます。

大学生になったばかりの皆さんの胸中は、様々な希望と不安に満ち溢れていることでしょう。知らない土地、知らない人たちに囲まれて、これから始まる大学生活は、これまでの学生生活とは大きく変わります。

そんな皆さんに、私から伝えたい事がひとつだけあります。それは、様々な事に挑戦して欲しいということです。皆さんは晴れて大学生となり具体的に「これがしたい」と思うものがない人もいるでしょう。大学生の四年間という時間は限られた貴重な時間で、それをどのように使うかは皆さん次第です。勉強に費やすのも良いですし、友人との時間を大切にしたり、クラブ活動に精を出すのも良いでしょう。ですが、何もしないという選択肢だけは取らないでください。皆さんは何か新しいことをやって見て下さい。漠然としていても結構です。何か目標を持ち、その目標に向けて行動を起こして下さい。そうすることで皆さんの大学生活はより有意義なものとなり、自分を成長させてくれるものになるでしょう。

皆さんは入学してまだ実感がわかないと思いますが、今日から高千穂大学の一員です。

今日から始まる学生生活では様々な出会いがあります。この出会いの中で、楽しい時、つらい時に話のできる友人を作ってください。心を許せる友人を作ってください。始めは戸惑うかもしれませんが、あせらず四年間共に過ごせる仲間を作ってください。

本学には、学友会という組織があります。学生が有意義に過ごせるように、部活動の支援や、学園祭などの様々なイベントを企画しています。他にも、様々なクラブ・同好会・愛好会・高千穂祭実行委員会や、ゼミナール連合本部もありますので、興味を持ったらのぞいてみて下さい。新入生の皆さんに合ったクラブなどが絶対あるはずですよ。

大学生活を過ごす中で、いろいろな障害にぶつかるとは思いますが、一人では考え込まず、先輩である私達に声を掛けて下さい。いつでも相談に乗ります。

最後になりましたが、皆さんが学園の指針である「常に半歩先立つ進歩性」を意識し、学園の目標である、「偏らない自由人」、「気概ある常識人」、「平和的国際人」として成長される事を願っております。

今後の皆さんのご活躍を期待しまして、歓迎の辞とさせていただきます。

大学の委員会紹介

連合教授会・委員会（敬称略）

委員会名	委員長	常任委員	委 員		
教務委員会	寺内 一	楠美 将彦 松崎 和久 徳田 治子 鈴木 隆弘	佐藤 孝一（外国語） 岡田 泰介（人文） 菅野理樹夫（自然） 鈴木 隆弘（教職） 楠美 将彦（経済・金融） 小澤 勝之（経営・起事） 松崎 和久（経営・起事）	鈴木 一成（情報） 五野井郁夫（社会） 今野 廣隆（体育） 佐野美智子（マーケティング） 後藤 正廣（会計） 小島 庸和（法律） 徳田 治子（人間・児童）	
学生委員会	森平 明彦	大島久幸 庄司真人	倉茂 道德 高田 大安	長谷川万希子 小泉 友香 中元 崇智 （嘉瀬 英昭）*秋学期より	
入試委員会	降旗 徹馬	石井 康彦 川名 和美 松丸 修三 金杉 武司	渡辺 博之 岡田 有司 新井 健之 吉原 千賀	小向 敦子 藤田 泰一 小林 康一 園部 靖史	
就職委員会	並木 雅俊	染谷 昌義 田中 正隆 西山 徹二	恩蔵 三穂 園田 哲男 柴田 舞	田口 和雄 黒川 雅之 百瀬 優	
海外研修・IBCS 委員会	佐藤 孝一	木村 正人	寺内 一 松谷 明美	安本 真弓	
資格審査委員会	渋谷 栄一		小澤 勝之 竹内 慶司	林 裕二	
FD・質保証運営委員会	成田 博		今野 廣隆 後藤 正廣 笹金 光徳 金杉 武司	小澤 勝之 岡田 泰介 寺内 一	

連合教授会・附属諸機関

	委員長・所長	委 員		
課外講座運営委員会	（委員長）竹内 慶司	渋谷 栄一 松丸 啓子	舟木てるみ	
情報メディアセンター	（所 長）鈴木 一成	笹金 光徳 永戸 哲也	河合亜矢子	
アジア研究交流センター	（所 長）恩蔵 三穂	新津 重幸 藤井 耐		
総合研究所	（所 長）藤芳 明人	後藤 正廣 小澤 勝之 岡田 泰介	（各プロジェクトリーダー）	
図書館運営委員会	（館長・委員長）大関 康博	小島 庸和 八木澤秀記		

特別委員会

	委員長	委 員		
教員評価・倫理委員会	学 長	藤井 耐 倉茂 道德	渋谷 栄一	
教学事項自己点検実施委員会	学 長	今野 廣隆 寺内 一 森平 明彦 降旗 徹馬 並木 雅俊 大関 康博 藤芳 明人 恩蔵 三穂 鈴木 一成 後藤 正廣 小澤 勝之 岡田 泰介 林 裕二		

新任教員紹介



人間科学部 准教授

岡田 有司
(おかだ ゆうじ)

Yuji Okada

教育・発達の問題について思考し 模索し続ける

私の専門は教育心理学・発達心理学で、児童・青年を中心に学校生活への適応や、時間の使い方と発達の問題について研究しています。また、研究とともにフリースクール、中学校内の相談室、保育園などのフィールドにも入り、様々な困難を抱えた子どもとも関わってきました。高千穂大学では教職関連の授業を中心に担当させていただきますが、こうした研究やフィールドでの経験も踏まえながら教育にあたりたいと思います。

現在、教育現場ではいじめや不登校、校内暴力といった学校適応上の問題を抱えた子ども、自閉症・ADHD・LD等の発

達障がいを抱えた子ども、家庭内暴力や虐待といった家庭での問題を抱えた子どもなど、様々な子どもの問題に対応することが求められています。そしてそのためには、子どもの教育・発達に関する心理学の専門知識に基づき問題の背景を理解できる必要があるとともに、問題の改善に向けて専門知識を活用できることが重要です。

ただ、子どもの教育・発達をめぐる問題は複雑であり、専門知識を身につけたからといって問題を完全に理解したりすぐに解決できるようになるわけではありません。一人ひとり問題の背景や現れ方が異なる子どもに対して、こうした時にはこうすればよいという絶対的なマニュアルはないといえます。もし、マニュアル化された対応に安易に盲従してしまえば、思考停止に陥り問題の本質を見誤るばかりか、問題を悪化させてしまう危険性すらあるでしょう。

ここで重要になるのは、複雑でわからない子どもの問題を理解しようと「思考し続けること」、何が改善につながるのかを「模索し続けること」だといえます。そして、思考し模索を続ける過程においてこそ、専門知識は私たちの心強い味方になってくれるでしょう。高千穂大学での教育・研究を通して、学生の皆さんとともに子どもの教育・発達の問題について思考し模索していけることを楽しみにしています。



経営学部 准教授

五野井 郁夫
(ごのい いくお)

Ikko Gonoi

政治学には何ができるのか

本年度本学に赴任し、「政治学」と「地方自治」の講義を担当することになった、五野井郁夫と申します。政治学者や国際政治学者というと、「朝まで生テレビ」やニュースに出て来るタレント学者という印象を持たれている方も多いかもしれません。

ですが、実際の政治学とは、50年先、100年先の将来を見据えてグランド・セオリーを構想しつつ、また実社会に貢献するという実学の側面も持ち合わせています。

わたくしの場合は、専門として直接民主主義論という、有権者をステークホルダーと捉え、いかにして人々の民意を政治に反映させるのかを、国内政治と国際関係の双方から研究して

います。その成果の一部は今年4月の末にはNHKブックスより『「デモ」とは何か―変貌する直接民主主義 (NHKブックス No.1190)』を上梓することができました。

それとともに、これまで外務省国連政策課での「若手実務者と若手研究者の研究会」、経済産業省での政府新成長戦略にかんする「オルタナティブ・ヴィジョン研究会」の委員をはじめとして、多くの政策の検討と提言を行って参りました。

現在も人事院・自治省(現総務省)所管の日本人事試験研究センターで公務員試験の政治・行政・国際関係分野のグループを率いるとともに、政府復興構想会議の継続である「震災復興にかんする研究会」(サントリー文化財団、座長御厨貴教授・猪木武徳教授)の「復興政策と国民感情」部会メンバーとして、わが国の復興と皆様の生活を守る活動をしています。

政治学は商学や経営学、人間科学同様、人々のための学問です。人の生き死にや国家、国際社会全体の命運を構想することが、政治学にできることであり、また課題でもあります。これらの社会活動を本学での学生への教務はもちろん、高千穂大学、そして高千穂学園全体の繁栄のために活かすことができれば幸いです。



商学部 准教授

柴田 舞
(しばた まい)

Mai Shibata

経験を積み持続的成長を目指す

2012年4月に高千穂大学商学部に着任いたしました、柴田舞です。私は大学院修了以降これまでに、銀行と大学の合計3か所への勤務を経験してきました。いずれの勤務先においても教育や証券市場の計量分析の研究といった仕事をこなすだけでなく、それぞれの組織に固有の特徴を経験しました。これらはすべて、社会人としての自分を形成する基礎になったと思っています。複数の組織に所属したことで自分の見識を広げると同時に、考え方や行動に偏りを減らすことができ

たと思っています。

具体的に申し上げますと、研究内容を発表する論文の書き方一つをとっても異なります。銀行では多くの方に、そして専門外の方にも読んでいただけるように、簡潔な文章を用いながら論理展開をしっかりとさせて執筆するように指導されました。言葉の選び方や文章の組み立て方を吟味することで、研究内容もブラッシュアップしていくという方法です。ところが2か所目に所属した公立大学では、説明力はあまり重視されませんでした。むしろ学術的に新しく高度な研究テーマに取り組むことが高い評価を得るという環境でした。3か所目の私立大学では、現実の社会とのつながりを常に意識しながら、専門的な内容でもかみ砕いて説明する必要を強く感じました。それと同時に、周りの評価を意識しながら自分から積極的に発信するという同僚の姿勢に影響を受けました。

このたび、高千穂大学に着任できましたことを、とてもうれしく思っております。これまでとはまた違った経験を積むことを、楽しみにしております。高千穂大学の皆さまとともに仕事をさせていただくことで、私自身も成長させていただきたいと思っています。なかでも学生の方々からの影響はとてもありがたいものと、これまでの経験からも期待しています。



商学部 助教

小泉 友香
(こいずみ ゆか)

Yuka Koizumi

生産活動の実態を写像する 正確な原価の測定

近時の製造間接費配賦に関するCooper&Kaplan、その他による活動基準原価計算(Activity-Based Costing)の一連の研究にその典型例を見ることができる製品原価計算の精緻化のための研究は、必ずしも成果を挙げているとは言えない状況にあります。製品原価の測定過程は3段階ありますが、それらの研究は、第2段階である製造間接費の部門別計算であり、第3段階である製品別原価計算が精緻化されなければ正確な製品原価を計算することはできないのです。

一方、企業の生産活動を対象とする原価管理の現場に目を移すと、製品、部品、活動等の単位当たりの原価を引き下げる

べく努力が行われています。また継続的改善を実施している生産工程等では、非常に微細な作業の改良を積み重ねて原価低減を試みています。このような原価改善を効果的に行うためには、詳細な原価情報が継続的に現場に提供される必要がありますが、これらを測定対象として原価を正確に計算するシステムが原価計算制度上もしくは制度外に確立しているとはいえません。そこで、私は、生産活動の実態を写像する正確な原価を測定することができる製品原価計算の理論モデルを構築することを主な研究テーマとしています。

また高千穂大学では、管理会計学および工業簿記を担当しています。これらを含む会計学は、実用的な学問であり、会社法、税法および業種ごとの関連法によりその実施が義務付けられています。したがって、全ての企業は会計業務を行わなければならないのです。工業簿記は、主として生産活動を対象としますが、生産活動には製造業、加工業、鉱業、酪農業、発電業等も含まれ、さらに金融業、医療業、サービス業等、商品を仕入れて直ちに販売する商業以外のすべての業種にも適用されます。工業簿記というと「工業」という名称から連想して製造業だけを対象としている学問と思われがちですが、非常に広く実践的な学問といえますので、興味を持った方は、ぜひ教室を訪れてみてください。皆様とお会いできることを楽しみにしています。

白根セミナーハウス

ここにしかない四季があります。

- 北を仰ぎ見れば、白い綾線の美しい草津白根山、少し歩けば、雄大な浅間山もその噴煙とともに望むことが出来ます。
- さわやかな風、すんだ空気、素晴らしい自然のキャンパスの中で、ゼミナール宿、学友会活動等の場として広く利用されてきました。
- 自然のキャンパスに仲間が集う時、教師も学生も一体となった感激を味わうことができるにちがいありません。



送迎バス	万座・鹿沢口駅～セミナーハウス間の送迎をおこなっています。利用希望者は、申し込み時に総務部に申し出て下さい。(24人乗り)
申込方法	予約は、2ヶ月前の日より受け付けます。使用日の1週間前までに料金を添えて、総務部まで申し込んで下さい。
定休日	毎週水曜日が定休日ですので、計画を立てる際にはご注意ください。
施設	収容人員50名 客室8室(エアコン、テレビ完備) 食堂5席 駐車場10台 セミナールーム 野外バーベキュー(5月下旬～9月末) テニスコート バドミントンコート 卓球台
利用料金(1泊2食付)	学生 2,500円 一般(含卒業生) 4,000円
取り消し及び変更	使用日の3日前までに総務部(TEL 03-3313-0141)までご連絡下さい。それ以降の取り消しは、原則として利用料金の払い戻しはおこないません。

利用者心得

- ①チェックイン13:00 チェックアウト10:00
- ②公共利用場所(食堂等)の使用は午後9時00分までとする。
- ③利用者は、使用許可書を管理人に提出し、宿泊者名簿に必要事項を記入のうえ、部屋割を受けること。
- ④利用者は、管理人の指示に従い部屋の清掃、整理、整頓、食器の後片付け等は各自で行うこと。
- ⑤施設、備品等を使用するときは、あらかじめ管理人に届け、指示に従うこと。破損した場合は、その実費を弁償すること。
- ⑥火気には特に注意し、喫煙者はマナーを守ること。
- ⑦施設内の風紀、秩序を乱したり、他人の迷惑となる行為をした者は以降の使用を禁止する。

- 所在地 〒377-1712 群馬県吾妻郡草津町前口3-107 TEL 0279-88-4026
- 交通 上野より(直通又は渋川乗り換え吾妻線)万座・鹿沢口駅下車、送迎バスがあります。(約20分)
関越自動車道、渋川・伊香保ICより約1時間
上信越自動車道、碓井峠沢ICから鬼押ハイウェイでの利用も可能



長年にわたりセミナーハウスの管理人をお願いしている戸部ご夫妻。



学友会セミナー風景

ホームページでもセミナーハウスの詳しい情報をご覧ください。 <http://www.takachiho.jp/>

情報メディアセンターからのお知らせ

コンピュータ室の利用について

授業の空き時間を利用し、コンピュータ室の開放を行っています。開放時はコンピュータ室内のパソコンを学習・研究のために利用することができます。

パソコンの利用には、「TAKACHIHONET利用者証」が必要です。利用者証を紛失した場合などは、情報メディアセンター事務室で再発行の手続きを行ってください。

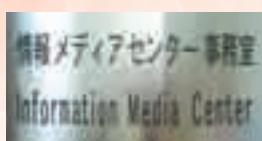
コンピュータ室開放の予定は、情報メディアセンターのホームページや学内設置の開放教室案内モニター(5号館1階と2号館3階の廊下)でお知らせしています。

<コンピュータ室開放時間(長期休業中を除く)>

平日 9:00～20:00

土曜日 9:00～15:00

*都合により閉室になる場合や開放時間が短縮になる場合があります。最新の情報はホームページや開放教室案内モニターで確認してください。



機器の貸出しについて

情報メディアセンターでは、ノートパソコンなどの機器の貸出しを行っています。貸出し期間は7泊8日以内。貸出しの際は「情報メディアセンター利用者票」が必要です。

借受けた機器を紛失したり、損傷させた場合は弁償となります。機器の取り扱いには充分注意して利用してください。

<主な貸出し機器>

ノートパソコン(Let's Note シリーズ) 80台、
デジタルカメラ 5台、デジタルビデオカメラ 10台、
プロジェクタ 3台、ポータブル HDD 5台

無線 LAN の利用について

本学には約70カ所に無線LANのアクセスポイントが設置しており、学内ほぼ全域で無線LANの電波を受信することができます。無線LANを利用することにより、個人のノートパソコンや情報メディアセンターで貸出しているノートパソコンでインターネットや学内ネットワークに接続することができます。

個人のノートパソコンを無線LANに接続するにはパソコンの設定が必要です。設定方法は「情報メディアセンター利用の手引き」の「第6章キャンパスLAN/情報コンセント」を参照してください。

図書館

無限の可能性を求めて

大学の4年間は、君たちの人生において最も大切な時期です。大学で学ぶべきことは人としての広い教養と深い専門知識です。高千穂大学図書館では、社会科学系資料を中心に、図書245,000冊、雑誌1,800誌、視聴覚17,000点を所蔵し、電子データベース・ジャーナル15種を揃え、学生諸君の知的好奇心に応えています。知的好奇心を満足させることができる空間は図書館にはあります。この空間に無限の可能性を求めて来館することを望みます。

平成24年4月 図書館長

施設・設備

2号館の1階、2階、地下1階が図書館です。1階は情報検索用パソコン、視聴覚コーナー、2階は蔵書検索用パソコン4台があります。169席の学習机、またグループ学習室があります。



図書館開館時間

平日 9:00～21:30
土曜日 9:00～18:00
日曜日 10:00～18:00



所蔵資料

図書

- 一般図書（カリキュラム構成に沿った教養図書及び専門図書です。）
- 参考図書（辞書・事典・年鑑・白書・統計などがあります。）
- 指定図書（教員が授業に関連して学生に必読するように指示した図書です。）
- 会社史（本学では国内企業発行の5,400冊を所蔵しています。）
- ガンバレ高千穂（資格取得・就職試験・面接対策用図書です。）
- 文庫本（岩波文庫・中公新書・日経文庫などです。）
- 高千穂文庫（高千穂学園関係者の著作物です）
- 貴重書庫（社会科学分野における貴重図書を保管しています。）
- 杉並区が掲げているアニメ産業の発展支援事業に呼応し、アニメ（コミック系）が1階に設置されています。

視聴覚資料

社会科学系の資料を中心に劇場版映画等、約4,800点を所蔵しています。プロジェクトXやガイアの夜明けなどのドキュメンタリー番組も揃えています。

雑誌・紀要

約400タイトルの和雑誌を約230タイトルの洋雑誌を毎年受け入れています。また、大学の紀要（教員の研究論文を掲載した定期刊行物）も多数所蔵しています。

オンラインデータベース

新聞記事検索、有価証券報告書、官報など多くのオンラインデータベースを利用できます。図書館のパソコンはもちろん、学内設置のパソコンであればアクセス可能です。データベースとジャーナルの2種類があり、データベース名は以下のとおりです。

オンラインデータベース一覧

	データベース名	内 容
データベース	GeNii : Nii学術コンテンツ・ポータル	国立情報学研究所が提供している目録所在情報サービス、情報検索サービス、電子図書館サービス等を利用し、図書・雑誌・論文情報や研究情報等を入手することができます。
	MAGAZINEPLUS	雑誌記事索引、論文集、講演集、学会年報、研究報告等の記事情報が検索できます。
	日経テレコン21	日本経済新聞、日経産業新聞、日経流通新聞の全文記事データベースです。
	聞蔵Ⅱビジュアル	朝日新聞の全文記事データベースです。
	ヨミダス文書館	読売新聞の全文記事データベースです。
	eol	有価証券報告書総覧全ページをイメージデータで見ることができます。上場・店頭会社のほか、非上場会社の一部も収録しています。
	JapanKnowledge	日本大百科事典、大辞泉、和英・英和辞典等をはじめとする20種類以上のコンテンツを利用することができます。
	CASEC	インターネットを使った英語コミュニケーション能力テストです。利用にはID・パスワードの登録が必要です。（利用に関する問い合わせは教務1課）
	LEX/DB INTERNET	TKC法律情報データベースサービスのインターネット版です。民事法、民事特別法、公法、広報、社会経済法、刑事法すべての法律分野の判例を収録しています。
	官報情報検索サービス	官報の本紙、号外、政府調達広告版、資料版、目録を検索することができます。
ジャーナル	Journal web	本学で購読している洋雑誌はこちらの検索サイトから電子ジャーナルとして閲覧することができます。※ただし出版社により公開していないものもあります。
	JSTOR	Arts&Sciences およびBusiness Collectionとして収録した洋雑誌のバックナンバーです。創刊号から閲覧できます。
	InfoTrac Custom Journals	Gale社が提供する雑誌データベースの中から選択した約250誌のデータを閲覧できます。
	日経BP記事検索サービス	日経BP社が発行する約40誌の雑誌記事を閲覧できます。

大学図書館の役割は2点あります。第1は大学における知識の集約点です。図書館には古今東西のあらゆる分野の知識が書の形を通して集約されており、学生・教職員にとって研究・教育の上で不可欠の施設です。第2は情報の集約点です。図書館はコンピュータネットワークで、国内・海外の大学や研究施設とつながっており、あらゆる分野の情報が入手できます。こうした図書館の機能は単に集約されただけではなく、活用されなければなりません。

本学図書館は、ほとんどが開架方式のため求める資料は自由に手に取ることができるようになっています。また、これらは図書館のホームページから検索ができます。学生のみなさんは図書館をよりよく活用して、充実した学習・研究活動を送ってください。

図書館員が選んだこの3冊



『最強の起業戦略 —スタートアップで知っておくべき20の原則』

原書名: Technology Ventures From Idea to Enterprise 20 (Dorf, Richard C.; Byers, Thomas H.)

Dorf, Richard C. > パイアース, トーマス 著 > Byers, Thomas H. > 設楽 常巳 訳

[日経BP社・5,040円] (2011年11月14日 出版)

ISBN: 9784822248833

アップル、グーグル、アマゾン、シスコ、スターバックス、70以上の最強企業の事例で解説。起業に必要な知識と手順を1冊で網羅。

第1部 ベンチャー事業を起こす機会、概念、そして戦略(資本主義と技術系事業家:事業機会と事業概要:競合優位性の構築:戦略作成:イノベーション概略)

第2部 ベンチャー構成と計画(リスクと報酬:ベンチャー事業創造と事業計画:独立系ベンチャー対企業系ベンチャー:知識、学習、構成:法律上の事業構成と知的財産)

第3部 ベンチャー事業のための詳細機能計画(マーケティングと販売計画:新しい企業組織:取得、組織化、資源管理:経営管理:取得、合併、グローバルビジネス)

第4部 ベンチャー事業の資金調達と構築(収益と収穫計画:財務計画:資本の財源:計画を発表し契約を交渉する:技術ベンチャー事業を成功に導く)

『なぜ本番でしくじるのか —プレッシャーに強い人と弱い人』

原書名: Choke: What The Secrets Of The Brain Reveal About Getting It Right When You Have To (Beilock, Sian)

バイロック, シアン 著 > Beilock, Sian > 東郷 えりか 訳

[河出書房新社・2,310円] (2011年10月30日 出版)

ISBN: 9784309245669

「うわの空」のほうかうまくいく!?

入学試験から就職の面接、重要なプレゼンやスピーチ、そしてゴルフのパットまで、大事なときに緊張するとなぜ失敗するのかを、最新の脳科学をもとに分析。解決策も満載。



『伝説の「どりこの」 —一本の飲み物が日本人を熱狂させた』

宮島 英紀 著

[角川書店・1,575円] (2011年11月15日 出版)

ISBN: 9784041100417

「どりこの」—かつて、この国を席捲した飲み物。

旧陸海軍でも用いられた滋養飲料を大々的に売り出したのは…なんと講談社だった。「聖水」と呼ばれるほどの人気を博したが、太平洋戦争の激化にともない製造中止に。戦後、一時は復刻されるも、開発者の死と共に消えていった…。

誰がどうつくったのか? なぜ昭和を代表する飲み物になったのか? どうして現代では製造できないのか? 「どりこの」ミステリーから、昭和の新たな姿が見える。謎の飲み物から新しい昭和を描き出す、発掘ルポの傑作!!

引用: 紀伊國屋書店BookWeb

平成24年度 就職活動支援行事

本年12月に始まる就職活動において、厳しく、そして辛いことを経験するかもしれません。しかし決して諦めず、粘り強く取り組んでください。さまざまな試練を乗り越え、志望企業から内定の連絡を受けたとき、ひとまわり大きくなった自分に気づくはずです。目標を掲げ、これまでの大学生活で得たことを最大限に活かして志望企業にチャレンジできるよう、就職活動の準備を進めてください。

春学期の支援行事は、自分の将来に関連のある就業体験であるインターンシップや職業・職務理解増進のための仕事研究を中心に据えています。就職活動のためばかりか、就職してもミスマッチが生じないためにも、多くの仕事を学んでください。

また、秘書検定講座、公務員採用試験対策講座も開講しています。

実施日程			行 事	1・2年生 参加可能	ポイント
5/8	火	10:40～12:10	仕事研究（基礎編）	★	仕事理解を深める
5/14	月	11:30～16:30	春の進路相談会 ～25日		進路についての面談
5/28	月	16:20～17:50	適職診断テスト（フォロー講座）※希望者のみ	★	自己分析から適職を考える
6/4	月	16:20～17:50	留学生ガイダンス ※留学生対象		就活の留意点を知る
6/5	火	10:40～12:10	仕事研究（応用編）第1回セミナー	★	OB・OG・人事担当者から 「どんな働き方があるのか」を聞く （各回4業種開催予定：計16業種）
6/19	火	10:40～12:10	仕事研究（応用編）第2回セミナー	★	
7/3	火	10:40～12:10	仕事研究（応用編）第3回セミナー	★	
7/17	火	10:40～12:10	仕事研究（応用編）第4回セミナー	★	
9/25	火	10:40～12:10	秋の就活ガイダンス		就活の流れを再確認
10/2	火	10:40～12:10	自己分析・自己PR講座		自分の強みを探る
10/9	火	10:40～12:10	エントリーシート・履歴書講座		自分の強みを表現する
10/16	火	10:40～12:10	一般常識テスト		筆記試験の実力確認
10/23	火	10:40～12:10	就職活動体験報告会	★	就活の実情を知る
11/12	月	10:40～12:10	秋の進路相談会 ～16日		進路相談とアドバイス
11/19	月	16:20～17:50	女子学生の働き方と就活準備セミナー		就活マナーの習得
11/20	火	10:40～12:10	面接マナー対策講座		面接試験におけるマナーの習得
11/20	火	13:00～15:00	グループ体験講座	★	体験学習
11/26	月	16:20～17:50	学内選抜インターンシップ報告会	★	実習報告
11/27	火	10:40～12:10	採用試験面接対策講座（基礎編）		選考ポイントの確認
11/27	火	13:00～16:00	採用試験面接対策講座（応用編）		体験学習
12/3	月	10:40～12:10	就職活動マナー講座		就活におけるマナーの再確認
12/4	火	10:40～12:10	就活実践講座		就活サイトを有効活用するには
12/4	火	13:00～17:00	U・Iターン就職相談会 ※希望者のみ	★	各県就職支援担当者との相談会
12/11	火	13:00～16:20	第1回学内合同企業説明会		企業との出会い
1/15	火	13:00～16:20	第2回学内合同企業説明会		企業との出会い
2/8	金	13:00～16:20	第3回学内合同企業説明会		企業との出会い

※開催日程は都合により変更となる場合がございます。事前に学内掲示、求人NAVIにてご確認ください。

就職活動中の皆さんへの支援行事

企業採用試験の最中です。活動中のみなさん、これから活動を始めようとしているみなさん、是非、下記の行事に参加してください。これまでの就職活動の方法を振り返ってみること、活動開始前の諸注意などを学ぶことから、新たな発見をしてください。

就職活動での悩みを一人で抱えてはいけません。就職支援課を大いに活用してください。就職委員会と就職支援課は、常に、みなさんを応援しています。

実施日程			行 事	ポイント
5/29	火	10:40～12:10	4年生リカバリー講座	就活の振り返り
5/29	火	13:00～15:40	学内合同企業説明会【2013年3月卒業者向け】	企業との出会い
7/17	火	未 定	4年生未内定者ガイダンス・相談会	個別相談と求人情報

※開催日程は都合により変更となる場合がございます。事前に学内掲示、求人NAVIにてご確認ください。

平成24年度 入試 結果報告



平成23年度は、東日本大震災およびそれに伴う福島第一原子力発電所事故という大きな出来事が、被災地はもとより日本全体にさまざまな形で直接、間接を問わず影響を与えた年であり、今後もその影響が続くことは明かです。

入試関係については、3月末のオープンキャンパスの中止や被災地への広報の自粛、受験生や合格者への経済的支援の検討などの対応に追われつつ、5月になってようやく大学全体としてスタートしました。

近年の入試の広報活動は、11月の推薦入試までは高校3年生をメイン対象とし、それ以降は徐々に高校2年生、1年生を対象とする傾向があります。こうした広報活動は、入試制度の多様化に伴うものと思われます。

つまり、「大学入試」といえば1月の大学入試センター試験や2月に行われる一般入試が本番と思われる方が多いかもしれませんが、最近では「AO入試」といわれるこれまでの「推薦入試」とは異なる形態の入試制度が行われるようになりました。実際の試験の時期も夏休み以降毎月のように行われ、早い時期から入学者の確保を図る大学が増えているということです。

本学の平成24年度入試に関する12月までのオープンキャンパス、入試日程は以下のとおりでした。

- ・オープンキャンパス:6/19、7/10、8/1、8/21、9/17、10/23、12/3
- ・AO入試:第1回(8月)～第5回(12月)
- ・公募制推薦入試:第1回(11月)、第2回(12月)
- ・指定校制推薦入試:11月

総志願者数は、対前年比109.8%と若干増加しました。入試制度別にみると公募制推薦入試はほぼ横ばい、AO入試は約

20%減、逆に一般入試は約23%増、センター方式は約10%増という結果となりました。一般入試系の志願者が増えた理由のひとつは、高等学校の進路指導の変化というものを挙げることができます。高校訪問等により得られた情報として、AO・推薦入試よりも一般入試やセンター試験による進学を目標として指導をしている傾向が強まったということです。原因は、AO入試や推薦入試により早い時期に進路が決定した生徒の高等学校での学習に対する意欲の低下や、大学入学後のモチベーションの在り方について問題とされてきたからです。

このような状況に対応すべく、本学では12月までのAO入試、推薦入試合格者を対象として、入試委員会、教務委員会の協働による入学前教育を実施しました。具体的には、第1回は学部ごとの学びに関連する資料の読解と要約の作成、第2回は学びの基本となる国語力の維持、増進のために2つの問題冊子を課し解答するものです。第1回の課題は本学専任教員が添削し返却、第2回の課題は採点の結果正答率70%未満の場合は再提出という指導をしました。第3回はこれまでの自己を振り返り、今後の目標設定を考えるための課題文の作成です。この課題文は入学後にゼミⅠという1年生必修科目の担任(43名)が添削し国語力の確認とともに今後の目標設定他の指導上の素材ともなります。

このように、入試制度の変化に対応し学力、モチベーションの維持を図るための取り組みも、少人数教育を標榜する本学ならではのサポート制度です。

平成25年度入試はすでにスタートしましたが、本学の教育方針に共鳴し、目的意識を持った学生をひとりでも多く受け入れるための学生募集に取り組んでいきたいと思ひます。

平成 24 年度入試結果

入 試 形 態	商学部		経営学部		人間科学専攻		児童教育専攻		合計	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
A O 入 試	91	78	79	52	31	25	5	5	206	160
推 薦 入 試	85	85	56	54	10	10	11	6	164	154
留 学 生 入 試	6	5	5	5	1	0	—	—	12	10
一 般 入 試	301	88	371	215	242	68	140	27	1,054	398
センター方式	293	97	368	214	82	62	68	32	811	405
合 計	776	353	879	540	366	165	226	70	2,247	1,128

※児童教育専攻のセンター方式利用入試はセンター方式Ⅰ期のみ。

平成24年度

課外講座 について



本学では、皆さんのキャリア形成やスキルアップのために多数の課外講座「会計・ビジネス・教育・情報・語学」の分野を開講しています。

課外講座は、専門学校の講師や各界の第一線で活躍している専門家が担当しています。学内で開講しているため、通学による時間のロスや交通費の負担はありません。

また、大学が受講料を補助しているため、受講者の費用負担は一般の専門学校の講座と比較すると3分の1から2分の1程度です。なお、課外講座の提供だけではなく各種資格試験の団体申し込み、本学での団体試験も行っています。学習の補完はもちろんの事、キャリアアップに如何でしょうか。

現在、申し込みを受け付けている講座もありますので、ぜひ活用してください。

平成 24 年度 課外講座一覧

分 野	講 座 名	担 当	受 講 料	教室	定員	申込期間
会 計	日商簿記3級(6月受験)	資格の大原	初受講者:1,000円 再受講者:10,000円 教材費:4,000円	1206	無	4/2(月)~ 4/20(金)
	日商簿記2級(11月受験)	資格の大原	40,000円 (教材費8,000円込)	1206	無	4/2(月)~ 6/18(月)
ビ ジ ネ ス	社会保険労務士入門講座	百瀬優 本学助教 角田大祐 特定社会保険労務士	受講料:2,000円 (資料コピー代込)	5102	無	4/2(月)~ 8/4(土)
	販売士2級	販売士TORERUアカデミー	20,000円 (教材費8,000円込)	1101	無	4/2(月)~ 4/27(金)
	ビジネス実務法務3級	資格の大原	28,000円 (教材費5,000円込)	1303	無	4/2(月)~ 4/27(金)
教 育	保育士	ヒューマンアカデミー 長谷川万希子本学教授 徳田治子本学准教授 百瀬優本学助教 岡田有司本学准教授	26,000円 (教材費5,975円込)	1203	無	4/2(月)~ 4/25(水)
情 報	マイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS)	資格の学校 TAC	27,350円 (教材費7,350円込)	5201	40	4/2(月)~ 4/18(水)
語 学	TOEIC基本	穂積由利子講師	30,000円 (教材費3,150円込・ 受験料4,040円別)	1202	無	4/2(月)~ 4/18(水)

(注意事項) 各講座とも申込者が5名未満の場合(日商簿記2級講座のみ30名未満)は閉講となります。
その場合は受講料を返金いたします。

公的資格取得支援奨学金制度について

一定の資格を持つ学生が、上位の資格を取得するために専門学校の講座を受講する場合、大学が10万円を限度として受講料の半額程度を補助する制度です。詳しくは、「2012年度版課外講座ガイドブック」をご覧ください。

対象講座

公認会計士、税理士、日商簿記1級、英検準1級相当以上、ITストラテジスト相当以上、社会保険労務士、中小企業診断士、販売士1級など



歓迎の辞

高千穂学園同窓会(大学第1回卒)
高千穂学園理事

会長 福田 昌夫

109年の歴史と伝統を誇る高千穂大学に入学した皆さん、誠におめでとうございます。

桜咲く4月4日に入学して以来、新入生オリエンテーションを経て、いよいよ期待と不安に満ちた、大学生活がスタートします。まずは早く大学の仕組みや環境に馴れて下さい。

大学4年間は、社会で自立する大事な助走期間です。専攻する学問習得は勿論ですが、

一番大切な事は、将来の志を持つことです。

将来何をしたいのか、どうやって生きて行くかをよく考え、目標を持ち継続、努力して行かなければなりません。

4年間はすぐ過ぎてしまいます。1、2年のうちは学業に精を出して、単位を取り、3、4年は、向上心を持って、人間形成、意識を高める研鑽につとめ、就活も余裕を持って活動するようなプランにすると良いでしょう。

ゼミⅡは進路選択に非常に有利な手段と成りますので、出来るだけ履修すべきです。

又、学友会や運動部に入って活動するのも、チームワークやリーダーシップの形成に役立つ事でしょう。

経済のグローバル化が叫ばれて、益々外国とのビジネスが増加しています。これからの中国、インド、東南アジアの発展を考えたとき、英語や中国語が話せたならもっと、活躍の場が広がると思います。既にユニクロや楽天は社内用語は英語になっています。

皆さんが世界に羽ばたいてゆく事を期待しています。

同窓会は卒業生を含む相互の親睦団体です。全国に支部があり、それぞれの地区で懇親会を開いて交流を深めています。

一方、大学支援事業として、毎年、体育祭や高千穂祭、ゼミ発表会に協力しています。

野球部やアメフト部など、運動部やゼミ連にも奨励金を贈呈して応援しています。

又、大学奨学金規程に基き、成績優秀な学生に対して、同窓会からも奨学金を差し上げています。皆さんも体育会や文連ゼミなどに所属して仲間と共に青春を楽しんで下さい。

そして、有意義な大学生活を送って下さい。



同窓会奨学金受賞者



同窓会新会員歓迎会

父母の会



より「学校と近い父母の会」を目指した活動を

父母の会 会長

米田 恵美子

今年度、父母の会会長を務めさせていただきます近畿・中国・四国ブロック地区の米田恵美子です。よろしくお願いいたします。

大学では、建学の精神である「家族主義的教育共同体」として、学生をサポートするために五位一体の組織を構成しています。理事会、先生方、事務局の皆様、同窓会そして父母の会です。私達父母の会は大学と家庭との連携を強め、そして活動を通して、親同志が親睦や交流を深めさらに学生達をサポートしていくことを目的としています。

また、活動の内容は、父母懇談会の開催、家庭との連絡の強化を図るために「黎明」「クォーターリー高千穂」の送付、奨学金に関すること、学校施設・設備、学術、文化、体育活動に対する協力、そして高千穂学園同窓会との交流を図っています。

特に9月に行われます全国地方支部にて開催される父母懇談会では、大学関係の先生方が地方に出向き父母と直に対話し、大学の教育や就職への取り組みの説明、講演、個々への懇談をして下さいます。これはとても手厚く、小人数制教育が定着している大学だからこそできる大学の気概の伝わる満足のいく内容です。

私の息子は現在商学部の4年生でお世話になっております。地方出身の子ども達は入学と共に一人暮らしが始まり、学業だけではなく日々の生活をする事から親の心配が付きものです。その心配を払拭してくれたのも

各支部の父母の会の存在であり、父母懇談会でした。支部会での先輩の保護者の皆さんのアドバイスは的確で心強く、安心感を得ると共に大変参考になりました。そして少しでもたくさんの方々に、先輩から受け継いだ思いや感謝をお伝えしたいと役員活動にも参加させていただくようになりました。是非、「学校に近い父母の会」を体感していただき、高千穂大学との

出合いを大切にし、年間を通して父母の会の活動をお願いします。

お子さんが大学で主体的に学ばれ、社会人への基盤作りをし、就職へとつながることを期待いたします。そして保護者の皆さんには父母の会において主体的に活動され、お子さんのサポートにつながる情報を得て頂きたいと願っております。



正門よりキャンパスをながめる

編集後記

▼4月4日、平成24年度入学式が挙行されました。▼新入生の皆さんはこれからどんどん新しいことにチャレンジをし、大学生活を余すことなく充実させて下さい。▼今年度からクォーターリー高千穂も新しいことに積極的にチャレンジしていきます。大学関係者の方々にもより一層様々な形でご協力いただきながら、高千穂大学の今をよりたくさん読者の皆さんに広報できればと考えています。▼どうぞご支援、ご協力をお願い致します。（編集室）

編集委員

●編集長 吉崎信彦

●委員 高橋 拓

西原正人





「大学基準に適合」の認定マーク

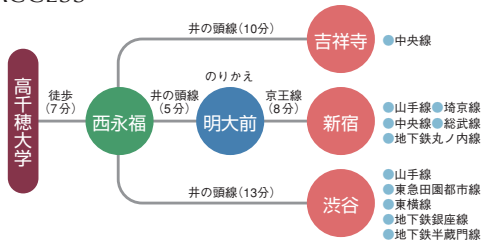
喫煙に関するルールについて

本学キャンパスのある杉並区では、条例により区内全域で、歩きたばこや吸い殻のポイ捨てを禁止（一部の路上禁煙地区では条例違反者から過料を徴収）しています。

本学においても、構内の指定された場所以外での喫煙は禁止とし、また、通学路等での喫煙についても歩きたばこや吸い殻のポイ捨てについては厳重に注意を与えています。

しかし、いまだにルールを守らない喫煙者が多く見受けられ、非喫煙者のみならず近隣住民の方々、ルールを守って喫煙している人にも多大な迷惑を掛けることとなっています。高千穂大学の学生として、節度ある行動をとり喫煙マナーの向上を心がけてください。

ACCESS



- 山手線・新宿駅または渋谷駅から西永福駅（井の頭線）まで13分（新宿駅からの場合は、明大前のりかえ）
- 中央線・吉祥寺駅から西永福駅（井の頭線）まで10分
- 西永福駅から本学まで徒歩7分

CAMPUS MAP



✉ soumu@gac.takachiho.ac.jp

Quarterly 高千穂 Vol.37

Quarterly高千穂 第37号

発行責任者：吉崎信彦 発行：高千穂大学

〒168-8508 東京都杉並区大宮2-19-1 TEL 03-3313-0141

発行日：平成24年5月20日 無断転載・複製不可

